

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 10 月 28 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (10/28 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m ³ /h	26.0	3.3 kPa g	A系： - vol%
		給水系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.03 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	32.7	6.78 kPa g	A系： 0.06 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.05 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	31.3	0.20 kPa g	A系： 0.07 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.08 Vol%

※ 指示不良に伴いデータ欠測

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (10/28 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	22.5 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	20.8 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	19.3 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	17.9 °C

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘイドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	10/27 10:43 ~ 移送実施中
		→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	
3号機	3号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	10/11 10:05 ~16:01 移送実施

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (10/28 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設 備(ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運 転	水バランスを みて断続運 転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

・H26/10/29～ 汚染水処理設備のうち淡水化装置について、制御盤の改造及びプログラム変更を行うため、以下の期間において、当該装置を停止予定。

また、当該装置制御盤の停止作業に伴い、サブプレッションプール水サージタンク(B)及びRO濃縮水タンクの水位監視ができなくなるため、第二セシウム吸着装置および各多核種除去設備についても停止予定。

なお、当該制御盤停止に伴い、復水貯蔵タンクへの供給も停止するが、事前に3号機復水貯蔵タンクの水位を90%まで補給することにより35時間程度の炉注水が可能となることから、炉注水への影響はない。(必要に応じて10/29の夜間に補給を実施)

<淡水化装置制御盤停止期間(予定)>

・10/29 および 10/30 9時～17時

<設備停止期間(予定)>

○第二セシウム吸着装置および淡水化装置

・10/29 9時～10/31 9時(作業終了次第再起動予定)

○各多核種除去設備

・10/29 および 10/30 9時～17時

(多核種除去設備および増設多核種除去設備については、停止期間以外は処理運転を行う予定)

<5. その他>

- ・H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
 - 4/2～ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
 - 7/28～ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。
 - 8/12～ ドライアイスを追加で投入開始。
 - 10/16～ 2号機開削ダクトについて、間詰め充填工事を開始。
 - 10/20～ 2号機立坑Aについて、間詰め充填工事を開始。
- ・H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
 - 6/2～ 凍土遮水壁工事を開始。
 - 10/3～ 凍土遮水壁造成工事における凍結管設置に伴い、埋設物(トレンチ等)を貫通させて凍結管を設置する箇所を対象に、事前の溜まり水調査を開始。
- ・H26/10/22 7:08～ 1号機原子炉建屋カバー解体作業における放射性物質の飛散抑制対策の一環として、当該カバー屋根パネルを取り外す前に同パネルに孔をあけ、飛散防止剤を散布する作業を開始。
 - 10/28 8:23頃 1号機原子炉建屋カバー解体作業において、屋根パネル孔部(南2屋根パネルNo.36)より、飛散防止剤を散布中に、先端ノズル部が風により動き、孔の開口が目測で約1m×約2mの三角型に拡大した。このため、同日の作業を中断。各ダストモニタおよびモニタリングポストの指示値に有意な変動は確認されていない。なお、当該作業時の風速は毎秒2m程度であったことから、突風によりクレーンが揺られ、先端ノズル部が動いたものと推定。
- ・H26/10/28 8:30頃 正門付近において、車両(4トンユニック車)より燃料油の漏えいが発生した旨、同日 8:35に緊急時対策本部に連絡あり。漏えい範囲は、約1m×約1m。その後、同日 8:53に富岡消防署へ一般回線にて連絡。漏れた燃料油は受け皿にて受け、同日 9:40頃漏えいが停止したことを当社社員が確認。富岡消防署による現場確認の結果、同日 10:34に「燃料油の漏えい事象」と判断。なお、受け皿内の漏えいした燃料油および燃料油のしみこんだ土壌の回収については、15:40に終了。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- ・地下水バイパス揚水井 No.1～12のサンプリングを継続実施中。(No.11は藻のような生物を汲み上げた原因調査のため、10/15より停止中)
- ・1～4号機原子炉建屋等への地下水流入抑制対策として設置した地下水バイパス設備について、地下水バイパス一時貯留タンクグループ2の当社および第三者機関による分析結果[採取日 10/19]は同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認したことから、10/28 9:55、海洋への排水を開始。同日 10:05に漏えい等の異常がないことを確認。同日 16:20排水を停止。排水停止状態に異常がないことを確認。なお、排水量は1,625m³。

【H4,H6エアータンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【1～4号機サブドレンの状況】

- ・10/18～ サブドレン他水処理施設については、一部のサブドレンピットを使用して、H26/8/12より安定稼働に向けた浄化性能確認試験等を開始しているが、残りのサブドレンピット28箇所を加え、計42箇所(実際はトリチウム濃度の高いNo.1,N14を除く40箇所)について、系統運転試験(STEP3-2)のための地下水のくみ上げを開始。
- ・10/24～ 地下水ドレンピットを使用して、使用前検査のための地下水のくみ上げを開始。
- ・1～4号機建屋近傍のサブドレン(全42箇所)については、ピット内の水質調査のため、サンプリングを実施。その中で、2号機原子炉建屋西側に設置されているサブドレンNo.18およびNo.19について、10/22および10/23にサンプリングした水のセシウム134およびセシウム137が、その周囲のサブドレンに比べて高い濃度であることを確認したことから、当該および周辺のサブドレンについて傾向を監視中。なお、No.18およびNo.19からの地下水汲み上げを、当面の間、停止。

<最新のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<サブドレンNo.18>

(10月27日採取)

セシウム134: 9.4×10^2 Bq/L

セシウム137: 3.3×10^3 Bq/L

<サブドレンNo.19>

(10月27日採取)

セシウム134: 1.0×10^2 Bq/L

セシウム137: 3.3×10^2 Bq/L

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上